

『健康福祉委員会』の新規予算

3月定例会が、2月24日から3月24日の日程で開催されました。

議会日程は、その議会が始まる1週間前の議会運営委員会で決定されますが、今議会においては、予算の修正があり、追加で日程が組み込まれました。

令和4年度の新年度予算については、予算決算常任委員会の各分科会において審議され、私が所属している「健康福祉常任委員会・分科会」の案件をご報告いたします。

証明書を自宅からオンラインで取得

自宅にいながらオンラインで証明書の発行手続きができるようになります。24時間・365日、いつでも申請が可能なこの取り組みは、これまで議会で求めていたものであり、評価しています。

デジタル化の取り組みについては「DX推進計画」で予定される取り組み内容と、そのスケジュールが示されています。寝屋川市の行政手続きは約600種類あります。それらを導入の難易度で分けており、次のようになっています。

- レベル1 添付書類・手数料が不要 ⇒ すでに導入済です
- レベル2 添付書類が必要 ⇒ 郵便によって可能となっています。
- レベル3 手数料等が必要 ⇒ 郵便によって可能となっています。
- レベル4 添付書類・手数料等が必要⇒ 郵便によって可能となっています。

「郵送による手続き」との違い

- ・マイナンバーカードを用いることで本人確認をします。よって、書類が不要となります。
- ・手数料分の定額小為替を役所に送る必要があり、郵便局で購入する手間が必要でしたが、クレジットカードで決済します。
- ・証明書は市から郵送しますが、当面は、郵送料を無料とします。

新年度に対応する6つの証明書

住民票の写し、印鑑登録証明書、課税証明書、所得証明書、戸籍事項証明書、戸籍の附票の写し

委員会では、オンラインによって職員の業務量が削減できます。本市の証明書の手数料の決め方は、証明書を発行する職員の時間を出し、職員の時給に掛けて算出します。そのような原理原則面での考えと、マイナンバーカードの交付枚数を増やすために市民サービス部で可能な唯一の誘導策として、手数料の減額を求めました。部長答弁では「検討する。」とのことですので、政策判断に期待しています。

香里園シティ・ステーションの引っ越し

京阪本線連続立体交差事業。により、シティ・ステーションが入っているJA北河内香里支店は立ち退きとなります。

そこで、JA北河内では、現在地から南へ約50mの所に新たに建設中であり、香里園シティ・ステーションはその1階に入居する予定です。

【スケジュール】

令和4年6月	建設工事
7月～8月	内装工事、ネットワーク・システム工事
9月上旬	移転作業

本年の9月の下旬、または中旬にオープンする予定で、今とほぼ同じスペースとなります。

移転費用として779万円が予算化されました。この移転経費の財源は、京阪本線連続立体交差事業の立ち退き移転補償金を充てるとのことです。

将来的には、駅に隣接する高架下への移転も考えられます。



妊婦健康診査の助成回数を拡充

出産後に行ったアンケートで「妊婦健康診査を受診した回数は？」との間に「約10%が14回を超える」との結果であったことから、実態に合わせた支援回数に拡充されます。

妊婦健康診査・・・最大17回（これまでは14回まででした）
多胎妊娠の健康診査・・・最大22回（18回～22回までは5,000円/回の助成額です）

母子健康手帳をアプリで便利に

これまでの紙ベースの手帳と併用する形で、アプリを活用した子育て支援に取り組みます。

主な機能

「子育て情報の配信」「成長記録のグラフ化」「予防接種管理」「オンライン相談」など

この取り組みを他の自治体で確認すると「アプリ」と「マイナポータル」の2つの方法が見られます。機能面ではアプリが優れています。

マイナンバーカードを活用したマイナポータルは、他部局のICTとの連携という点で優れています。

更に、マイナンバーカードの交付枚数を増やすという市全体での目的があることから、それに貢献する取り組みはそこに寄せて検討するのが当然だと思います。

導入までの検討過程で、他部局（特に、企画分野）との協議がなかったことが判明し、デジタル化への戦略性の欠如が課題として浮き彫りになりました。

災害医療センターの機能強化

地域防災計画での「災害医療の基本的な考え方」

- 災害医療センター・・・保健福祉センター1階休日診療所を災害医療センターとし、搬送前のトリアージと軽症者に対する応急処置を行う。
- 医療救護所・・・病院協会の医療機関で、中等度と軽症者への医療を提供する。
- 後方医療活動・・・二次医療から三次医療は、災害拠点病院で行う。

このように計画では位置づけられているものの、保健福祉センターの休日診療所には、医師が常駐していませんし、医療機器にも対応するには課題があります。

そこで、市内の災害医療協力病院になっている4つの病院にその役割を担っていただくことで、軽症者のみならず、中等度・重度軽症者の対応も同時に行えるようになります。

委員会では、阪神淡路大震災をイメージし、「負傷者の全てが病院に来れるわけではない。そのような病院に来た人以外に、街の中に取り残された負傷者のトリアージも実施するのか」ということについて確認したところ、明確な答弁はありませんでした。

これから防災訓練などを行って行く予定とのことですが、様々なケースを想定し、想像力を持って、制度構築する余地が残されている事案です。

「親亡き後」の問題に対し、総合的な検討に着手

障害者家族において、親が亡くなった、もしくは養育ができなくなった後、残された障害児者の養育についての心配は、以前より関係者から要望のあった切実な問題です。

第一段階として、障害児者が親と離れて暮らすことに慣れていただく取り組みをしています。

今回の検討会では、課題の整理を行った上で既存のサービスにつなげるとして、3回分の委員会費用が計上されました。

さて、この問題は3回で対応できる性質のものではありません。課題を抽出するだけでも3回では足りないかも知れません。

例えば、別府市では、2年間に22回の会議を重ねています。障害別に分け、丁寧に議論がされています。そのような事例を交えながら質疑を行いました。答弁では「3回で終了するのではなく引き続いて会議を行う」ことが確認できました。

難病対策・レスパイト入院への補助

在宅で療養している難病患者に対し、病気などの理由で介護できなくなった場合、一時的に医療機関で入院する制度が「レスパイト入院」です。

高度医療機器を使用する患者を対象とし、入院費用の補助金として総額280万円計上されました。災害時の円滑な避難行動につなげることが目的です。入院は14日間まで可能で、1日2万円（自己負担はないと考えられる金額）を上限に補助します。年間10人程度の利用と見込んでいます。

このレスパイト入院制度を利用するには、あらかじめ登録が必要ですので、寝屋川市保健予防課にご相談ください。（☎812-2361）

介護施設の整備

看護小規模多機能型居宅介護施設（定員29人）を東北コミセンエリアに、認知症高齢者グループホーム（定員18人）を東コミセンエリアに整備するための予算です。

近年は、介護人材の不足などが影響し、募集しても事業者側の応募がないケースもでてきています。

国民健康・栄養調査

令和2年度と3年度は新型コロナウイルス感染症により中止になった調査です。健康増進法に基づく全国規模の調査で、身体の状態、栄養の接種状況、生活習慣を調査します。

健康寿命の延伸はもとより、各医療保険と介護保険の健全化を目的に「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」が始まっています。喫緊の課題として取り組んでいることは理解しますが、高齢世代になってから身体機能の向上に取り組むのではなく、生後、成長に合わせた適切な健康対策に結びつけるべきです。

例えば、これまでの調査結果から「若年女性のやせすぎ」が課題の一つに挙げられています。「やせすぎ⇒骨量の減少⇒低出生体重児のリスクや骨粗鬆症⇒フレイル⇒要介護へ」という負のループが懸念されています。行動変容だけでなく、自然と健康に向かう環境づくりも必要です。

斎場のリニューアル

昭和61年に稼働し、建物・設備共に老朽化が進み、ユニバーサルデザインにも未対応なことから改修に着手します。

令和4年10月頃から6年度までの3年掛け、運用しながら改修します。

建物の改修と火葬炉の更新で、約10億円の予算が計上されました。

【主な改修のポイント】

- ・収骨室の増設（会葬者が他の会葬者と動線が重ならないようにするものです）
- ・待合ホールのリフォーム
- ・授乳室の新設
- ・動物専用炉と動物の収骨室の整備
- ・自家発電設備の設置

ねやがわの
データ

消防署の車両

枚方市と消防組合を組織し、消防・救急活動を行っています。管内の人口は約63万人で、政令指定都市に匹敵する大所帯です。

【市内各消防署に配備されている車両】

寝屋川消防署 ポンプ車3台、救助車1台、指揮車1台、はしご車1台、化学車1台、救急車2台
西出張所、南出張所、秦救急ステーション ポンプ車1台、救急車1台
明和出張所 ポンプ車1台、水槽車1台、救急車1台
神田出張所 ポンプ車1台、救急車2台

各地域の消防団には、ポンプ車1台と可搬式小型動力ポンプを積載した車が31台配備されています。